

開講学科	建築学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	建築マネジメント特論	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		1,2年次	選択	33003301		
担当教員	沼本 要七	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	前期	金曜日	6時限	
授業の教育目的・目標	<p>目的：地球環境問題をはじめ、グローバル化や少子高齢社会の到来、ICTの更なる進展など、建築を取り巻く社会環境や企業の経営環境は大きく変化している。それに伴い、需要側の社会や顧客ならびに供給側の設計者や施工者のマネジメントも多様化し進化を遂げつつある。このようなパラダイム変換に対応し建築にかかわる様々な関係者の要求を満足する、各種建築マネジメントの実践的習得を目指し、その成果によって人材力の向上を図る。目標：これからの様々な課題に要求されるマネジメントレベルまで知識と問題解決能力、実務適応能力を高める。さらに、自らの職能の確立を方向づけることを目標とする。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	<p>a. 自ら問題を発見し、自ら調べ、自ら考えて問題解決する能力を持つ。 b. 先端技術に関心を持ち、柔軟に対応できる応用力を持つ。 g. 建築家が備えるべき安全性や快適性に関する基本的な知識を持つ。 j. 建築家が備えるべき社会的責任を理解する。</p>					
キーワード	建築マネジメント、社会環境・経営環境の変化、マーケット・ビジネス、ステークホルダー、課題の把握と解決、マネジメント手法、イノベーション、社会・顧客満足、コスト、倫理、人材力					
授業の概要	<p>・建築をめぐる社会・経済環境、デマンド・サプライ双方の経営環境などを概説し、今建築をめぐる何が起きているか、何を為すべきかを共に探索する。・各種マネジメント手法や解決手法について、特に「建築コストマネジメント」と「FM」を基軸として、「CM」や「PM」とその具体的適用事例を実践的に学習する。・講義全般に渡り、関連する施工管理マネジメントの事例や経験および、とりわけPCMについて学んでいく。第12講は、精通した外部講師による講演を企画する。これからの「イノベーション」時代の建築マネジメントのありかたや方向について、知識と問題解決能力を高め、自らの人材力とマネジメント力を涵養する。</p>					
授業の計画	<p>第1回：はじめに、講義の目標、建築マネジメントの概説、建設業および建築事業、ビジネスの概説、建築をとりまく、すでに起きている未来と今何をなすべきかを考える 第2回：マネジメント&ソリューション&エンジニアリングにおける問題解決手法 第3回：FM（ファシリティマネジメント） 施設と環境の経営マネジメント概説 第4回：FM（ファシリティマネジメント） FM手法・プロジェクト実践事例 第5回：FM（ファシリティマネジメント） FM手法・プロジェクト実践事例 第6回：PCM（プロジェクトコストマネジメント） 建築コストマネジメント 第7回：PCM（プロジェクトコストマネジメント） 原価管理、建築コスト管理士への道、 第8回：PCM（プロジェクトコストマネジメント） —改修工事コストマネジメント演習— 第9回：これからのマネジメント、CRE、PRE、企画開発、PFI、PPP、公民連携 第10回：これからのマネジメント、環境不動産、BIM、ICT、点から線さらに面へ 第11回：CM（コンストラクションマネジメント） 概説、プロジェクト実践事例 第12回：PM（プロジェクトマネジメント） —外部講師による講演— 第13回：地球環境と安全・安心を守る建築マネジメント 第14回：イノベーション、人と組織、求められる人材力、CSR 第15回：まとめ —これからの活動領域、自らのスパイラルアップを展望する—</p>					
受講条件・関連科目	受講条件：特になし；関連科目：構造設計・材料等積算の母体となる科目、設備、建築法規、経営学、建築経済					
授業方法	テキストを中心にパワーポイント、プリント、DVDなどによる。					
準教科書参考書	<p>建築コスト管理士ガイドブック（公社）日本建築積算協会 総解説 ファシリティマネジメントおよび同追補版 FM推進連絡協議会 日本経済出版社 CMガイドブック 日本コンストラクション・マネジメント協会 相模書房 「建築積算」、「建築積算士」、「改修工事」、「概算」、「建築技術者のための原価管理」の各ガイドブック（公社）日本建築積算協会、</p>					
成績評価	・レポート、演習など（100%）					
履修上の注意	毎回テーマが異なり、それぞれがマネジメントとして重要である。					